

## 二宮町町民活動推進委員会 第2回委員会議事録

日 時：平成19年5月23日（水）19：00～21：00

場 所：二宮町役場2階・第1会議室

出席者：山内和夫委員長、高橋武士副委員長、奥慶子委員、向後孝明委員、神保智子委員、  
関野勝治委員、瀬戸宏委員、高山琢磨委員、蜂須賀光子委員、高橋克美委員

欠席者：稲葉茂徳委員

事務局：安部課長、二見係長、後藤主事

傍聴者：なし

配布資料（当日配布）

・会議次第

・資料1・・・・・・5月27日協働まちづくり補助金報告会開催について

- 先日送付した「報告団体一覧」について
- 報告会の進行の概要について
- 団体代表者へ受付で渡す留意事項
- 団体へ送付した実施内容（参考）
- 報告会時の質疑について調整

・資料2・・・・・・6月17日協働まちづくり補助金申込み団体について

- 先般送付した「補助金申請団体一覧」について
- 町からの諮問
- 前回会議での課題の整理について
- 公開プレゼンの進行概要について
- 公開プレゼンの流れについて
- 公開プレゼン時の質疑について
- 公開プレゼン順番抽選について

1. 開会（安部課長より）

2. 委員長あいさつ

・いよいよ日曜日に報告会を開催するという事ですが、前回の会議から宿題がたくさんあったので、いろいろな事を協議頂きたいと思っておりますので宜しくお願いします。

### 3. 議題

◆資料1に入る前に「報告団体一覧」の清算額について説明。

- ・清算額の端数がでている団体は補助対象額に満たなかったという事で、スタート支援1団体、ステップアップ支援3団体の戻し入れがございました。(以下表のとおり)

団体名	申請額	清算額	戻し入れ
まちづくりボランティア連合会	91,800円	85,482円	6,318円
有機の会	11,000円	10,823円	177円
大磯地区更正保護女性会 二宮支部	10,000円	8,936円	1,064円
元気なにのみや向上委員会	140,000円	62,484円	77,516円

お目通しを頂き、事業の成果や今後の課題等をご審議のほどお願いしたい。

「戦時下の二宮を記録する会」冊子ができてますので、「ひとしづく」という資料がございます。(2版目に入って講評だそうです、一冊1,000円)

- (1) 5月27日開催協働まちづくり補助金事業報告会開催について・・・(資料1)

◆事務局より説明。(二見係長)

- ・審査員(町民活動推進委員)集合として10時30分とありますが、申し訳ありませんが、こちらを10時00分に訂正してください。集合後に審査員の質疑の調整等、打ち合わせを地域推進室で行います。

(委員) 発表する際に団体は模造紙を用意する、とありますが、もし用意されなかったらどうなるのですか？

(委員長) それは模造紙無しでやるしかないでしょう。強制ではないので。

(委員) 必要と言う団体と不要と言う団体がいてハッキリしていないようですが…

(事務局) 各団体の発表のスタイルなので、無くても構いません。

(委員長) 模造紙やパワーポイントを使ったりして、団体のPRするのも手段ですが、ただ口頭で説明するのならそれでも問題ありません。

(委員) PRは広報に載るのですか？

(事務局) パワーポイント等がデータで残ったものはホームページに掲載して周知致します。

(委員長) 「平成18年度協働まちづくり補助金事業報告会に伴う資料送付及び質疑について」という資料が事前に配られ、既に記載されて来たと思いますが、後ほど事務局が回収した結果を一覧にし、当日の打ち合わせ会で「誰が何処の団体を質問するか」を調整します。この場で何か気になる事がありましたらお話頂けますか？簡単な感想で構いません。

- (委員) 元気なのにのみや向上委員会ですが、実行委員会をたくさんやっているみたいだが、会場費はとられなかったのだろうか？報告書を見るとあまり使用していないみたいだが…
- (事務局) 企画室が事務局的な立場だったので、役場庁舎の会議室を使われていた。また、食事等いろいろと切り詰めた中で戻し入れが出た。という報告が出ています。
- (委員) 報告書自体が判りにくい。申請書と報告書が比較しにくいフォーマットになっている。また、個々の団体の収支を見ると、赤字が出てる団体があり、その不足分はどうしたのか？書かれていないので心配である。
- (委員) 予算・計画などの連続性がわからない。予算と決算の対比がわかるフォーマットが良い。
- (委員) 随分、最初の事業計画と結果が大幅に変わってしまった団体があるようで、それはどうなのか？また、あがってきている決算報告が本当に適切なのかどうか非常に不明である。
- (委員) 赤字黒字が出た場合は、次年度への関わりはどうか記載されていないのが気になる
- (委員) 補助の対象とならない経費の例が出ているにも関わらず、明らかに報告書に記入されている。そういうのはもっとシビアに判断してもらった方が良い。
- (委員長) 各委員さんの意見をどう活かしていくか。欠点を指摘すれば限りないが、「こうでないといけない」と言えば、団体もやる気を無くすし、かと言って自由に過ぎてもいけない。皆さん、知り合いの方もいらっしゃいましょうし、何処かで関係が繋がってるので、最初は出来る限り支援した方が良いのでは…とありましたが、現在では問題点も多々出てきている。これを如何に修正していくのかを考えなければいけない。皆さん、今挙げて頂いた感想は、当日素直にぶつけてください。そういうことでステップアップしていけば良いのでしょう。
- (委員) ステップアップというのは「今後もやりたい」ということで補助していたが、スタート支援、ステップアップに継続して申請した団体が3つも抜けている。それで良いのだろうか？
- (委員) 活動を辞めたら問題になるのだろうか、自立に向けて補助金はいらない、というのなら構わないのではないか？
- (委員長) もちろん自助努力はあっていい訳だが、補助金を出しているのだから来年もまた申請をとという方向性と自主運営、自立に向けての取り組みをしようとする町民活動団体に対して委員会や行政がそこまで細かに指導する必要があるのだろうか。
- 折角、町の為にいろんな活動をしようと思ってる方を排除しかねない事を懸念します。

- ◆事務局より、提出された18年度補助金の報告書を読み上げる
- ◆事務局より、公開プレゼンテーション進行概要について説明
- ◆報告会のスケジュールを確認

○検討事項 交付団体と交付額について

(事務局) 19年度も補助金枠300万円を措置しています。昨年度は応募額が補助金枠を下回っていたため、団体の要求額にある程度対応できましたが、今年度、仮に応募団体が多くて要求額が補助額を上回った場合、どうするか？

(委員長) 今回は予算300万のうちの200万円ちょっとなので、従来通りのやり方で大丈夫だから、また今後を決めていけば良いかと思うのですが如何でしょう。長期的課題として考えていきましょう。

○検討事項 不交付団体と判断した場合の審査員の交付額の取扱い

(事務局) 昨年度は24点以下を付した場合、その審査員が付けた交付額は除外し、残った審査員が付けた交付額をもとに交付額を算出したが、不交付団体と判断した審査員の交付額を除外するかどうか。

考え方の①としましては、「昨年度と同様に、不交付団体と判断した審査員の交付額は除外し、残った審査員が付けた交付額をもとに算出する方法。

考え方の②としましては、不交付団体と判断した審査員の交付額は、減額要件として不交付なりの算定をもって交付額の算定に加え、交付額を算出する。

この2つの内容についてご議論頂きたいと思います。

(委員) 一人でもおかしいと疑問に思う委員さんがいれば、議論し減額対象に入れるべきではないでしょうか。②の案が良いと思います。

～②の案 委員多数～

(委員長) いろいろ意見が出てきましたが、時間がおしておりますので、どうしたら良いか、結論が出易い、説明がつく。そういった視点でもう一度考えてみてください。27日の報告会后にまた話し合います。

◆次回会議（協働まちづくり補助金事業報告会は5月27日（日）に開催予定

閉 会（山内委員長より）

◆21：00に閉会した。

議事録署名人

---

議事録署名人

---